

令和元年度 多面的機能発揮促進事業  
中国四国農政局長表彰 優秀賞組織

【環境保全型農業直接支払】

有限会社 田中農場 (鳥取県八頭郡八頭町、鳥取市)

～ 地域、そして日本を担う！

良質な堆肥と有機質肥料を用いた農薬ゼロを目指す特別栽培 ～

1. 組織概要

(1) 環境直接支払取組概要

- 【取組内容】 5割低減と堆肥施用の取組  
有機農業の取組
- 【取組面積】 8,013 a (H30年度)  
(堆肥7,560 a、有機農業453 a)
- 【対象作物】 水稻、野菜
- 【交付金額】 3688.8千円



(2) 構成員数

有限会社 1法人

(3) 環境直接支払取組開始年

平成27年度

(4) 化学肥料・農薬低減割合

【堆肥の施用】 化学肥料5～10割減、化学合成農薬5割～10割減

【有機農業】 化学肥料10割減、化学合成農薬10割減



圃場の様子



ドローンでの液剤散布



白ねぎの出荷作業

2. 推薦組織の取組概要

田中農場は、昭和46年に養豚業として起業。その後、耕種農家として地域の農家から農地を借り入れ経営規模を拡大し、水稻、大豆やビール麦の作付を増やしてきた。平成8年に有限会社となり、近年は農地中間管理機構関連整備事業を活用して関係する近隣の経営体と調整しながら営農しやすい農地を集団化し、相互の効率的かつ省力的な営農形態を図ってきた。経営当初から堆肥を圃場に使用した土づくりを行い、減農薬・化学肥料不使用栽培に力を入れてきた。平成18年にエコファーマーとして認定され、鳥取県特別栽培農産物の認証も取得している。

3. 取組内容

- 地域の資源を活用した国産材料による堆肥づくりを実践。『鳥取和牛オレイン55』で有名な近隣の肥育農家から調達した良質な牛糞と当農場の籾殻を活用し、半年から1年の年月をかけて完全発酵させた栄養豊富で良質な堆肥を生産している。また、近隣の豆腐店から調達したおからと当農場の米ぬか等を攪拌し自家製ボカシ肥料を製造。自家製の有機質肥料の使用を徹底している。
- 30センチ以上耕す「深耕」を行っている。深い作土層を設けることで作物に強く太い根を張らせ健全な生育を図り、病害虫による食害・罹病を軽減させ安定した生産を実現している。深耕のために必要な大型機械の導入やオペレーター等の人員体制の整備に力を注ぎ、手間を惜しまず深耕を行うことで、土地の持つ潜在能力を最大限引き出し、化学肥料に頼らない農法を可能としている。
- 平成29年、当農場の会長を代表とし、こだわりの米作りを追求する八頭町の生産者有志6名で「八頭米ブランド化推進協会」を立ち上げた。当協会は鳥取県特別栽培農産物認証に適合した独自の厳しい栽培基準を設け、栽培から出荷までの厳正な品質管理と工程管理を行い、安心・安全で高品質な米を栽培しており、自然環境との調和に配慮した農法を地域に広めることに貢献している。当協会で生産された特別栽培米は、「白兔伝説の里」八頭町産ということから、ブランド名を「神兎(かみうさぎ)」と名付けられ、県内外のスーパー、直売所、卸、飲食店等で広く販売されている。
- 鳥取県はカレーの消費量が全国第1位であることと関連して、カレーとの相性が良い鳥取県開発の香り米「プリンセスかおり」について、当農場はその開発当初から積極的に関わり、首都圏のカレー専門店、アジア料理店への販路拡大を進めることで「食のみやこ鳥取県」推進に貢献している。また、6次産業化にも取り組み、当農場で生産した水稻、大豆、白ねぎを原料として、もち、味噌、きな粉、黒豆茶、白ねぎ酢などの加工品の商品化を行っている。加工品についても農作物同様に各種イベントや商談会において積極的にPRを行い独自の販路拡大を進めており、県内外の飲食関係者から高い評価を得ている。
- 平成29年から、自社改革のためGAP認証に向けて社員複数が積極的に県内外の先進地視察やGAP研修会に参加し、職場環境の改善や作業工程の見える化等を図っており、令和元年6月にはJGAP認証を取得した。農場の職場環境の更なる改善のため、従業員一人一人が担当する業務を細分化し、役割分担を明確にしている。計画的に従業員が協力し合って作業を行える体制をとり、土日祝日でも休暇が取得できるようにするなど、働きやすい職場づくりを目指している。スマート農業にも取り組んでおり、従来から行っていたドローン防除に加え、令和元年からは、農機メーカー、関係機関と共同で生育診断や土壌診断を試験的に開始した。今後は土壌肥沃度や生育量の把握を重ね、データ解析結果を栽培設計策定に活用する予定である。



深耕の様子



苗田でのポット育苗



地域の資源(牛糞、籾殻など)を活用した良質な堆肥づくり



働きやすい職場環境